

令和 4 年度「学校評価集計結果（教職員）」分析とまとめ

1 教育計画（分析・まとめ）

■ 教育計画（分析・まとめ）：教育計画関係の 20 項目（1 番～20 番）に関して

学校教育目標や学校経営方針等については、概ね昨年度より高い評価となっている。新学習指導要領の活用に伴い、教育課程の取組や日常における授業の改善や工夫も進めることができた。特に ICT 機器の活用については、大きな伸びが見られたと考える。その反面、分掌や学科、学年における組織的な運営については、昨年度に比べ、低下傾向が見られる。10 年目を迎える本校として、それぞれの課題を明確にして整理する必要がある。また、生徒指導における対応が多く見られたため、教員間の連携や学校としての組織的な対応についても考える必要がある。

教育計画では、特に生徒指導に関して在籍する生徒の実態に応じ、柔軟な対応が求められることが多くなっているため、教師間の連携はもちろん、地域の関係機関とも連携をしながら、迅速に対応することが求められている。今後もいろいろな状況を想定しながら、学校の組織として取り組めるように体制を整える必要がある。

2 教育環境（分析・まとめ）

■ 教育環境（分析・まとめ）：教育環境関係の 8 項目（22～29 番）に関して

本校は今年で 10 年目を迎え、校舎の修繕など計画的に進める必要がある。また、コロナ予算などで学習環境の整備を進めてきたが、今後も継続して ICT 機器の整備や学習環境を整える必要がある。

生徒と同様に教員への ipad 購入も進み、日常的に活用できる環境が整ってきたため、今後は、教員がいろいろな面での活用を積極的に行う必要がある。学習面での活用はもちろんだが、学校運営上においても、会議や打合せに活用することも教務などと連携して取り組んでいきたい。

3 教職員（分析・まとめ）

■ 教職員（分析・まとめ）：教職員関係の 7 項目（30～36 番）に関して

33～34 の項目で昨年度に比べて低い数値となった。生徒のお手本となる教員が日常の態度や行動で課題と感じる先生が多くいた結果と考える。本校は、日頃から卒業後の進路を見据えた指導を行う上で、教員一人一人が意識して指導にあたってほしい。

校内研究や研修については、あまり高い評価ではないが、徐々に上がってきている。コロナ禍の状況から改善が図られ、校内においても計画的に進めてほしい。研修する機会が少しずつ増え、先生方の専門性を高めていける機会も増えているため、先生方への積極的な参加や参加できる校内体制を整える必要がある。

指導体制や会議・業務の効率化についても課題と感じている教員が多くいた。働き方改革が進み、時間の制限がある中で、どうやって先生方同士の連携を取ることが有効的なのか考える必要がある。次年度からは、教育課程を含め、効率的な学校運営を行えるように教育課程検討委員会等で検討を行っていきたいと考える。

4 情報、家庭、地域との連携（分析・まとめ）

■ 情報、家庭、地域との連携（分析・まとめ）：教職員関係の 6 項目（37～42 番）に関して

卒業後の進路や教育相談に関しての評価が多少、昨年度に比べて低く出たが、特に大きな課題とは感じられない。しかし、今年度は、二人の退学者と編入者が出ており、中学校段階での進路指導や教育相談時での確認など担当する教員をはじめ、学校や関係機関との連携を深める必要がある。

進路指導に関しては、進路担当を中心に生徒・保護者・関係機関が連携して迅速に対応することができている。コロナ禍でいろいろな状況を想定しながら対応することが多かったが、それぞれの学年や個々の状況に合わせながら今後も進める必要がある。

コロナ禍で積極的に進められなかった外部との関わりについても、状況を見ながら広げ、学校運営協議会などと連携して地域における役割を果たしていきたい。